

# 人権まちづくり新聞



第28号  
編集発行  
枚方人権  
まちづくり協会

## 「違いを豊かさに」誰もが住みよい社会を目指して

### 高麗美術館・ウトロ平和祈念館で現地研修

十月三日、枚方人権まちづくり協会の現地研修会がありました。

京都市北区にある高麗美術館は、在日一世で実業家のチョン・シヨムンさんが日本で集めたコレクシヨンを展示し開館しました。「祖国の歴史、文化を正しく理解してもらおうこと」を目的に、高麗青磁・朝鮮白磁、絵画、考古・民族資料



ウトロ平和祈念館で副館長の話をお聴く

など、多くの作品展示があり、優美さに目を奪われます。また、「差別を受けながらも日本の中で朝鮮文化は生きていく。両民族の理解を深め共感を分かちつこと」と息子である代表理事が涙ながらに語られていました。

宇治市ウトロ地区は、「京都飛行場建設」の在日朝鮮人労働者の飯場跡です。敗戦で工事が中断したこと

で、使い捨てのように放置されたウトロ地区。ガイドの方の説明を受けながら跡地をフィールドワーク（住民は今も新住居に移住）。在日一世の方々の暮らし。職を失い生活が困窮する中で必死で働き、生きること

を諦めない。「自分たちの言葉を取り戻す」学校づく

りから始めた。

この歴史に驚きと感動を覚えました。改めて人権を考える一日となりました。

（「朝鮮」という言葉は、もともと統一された朝鮮半島の地理的名称です）



誰もが活動できる場

### ファミリア卓球クラブ

私たちのまちには、こども、お年寄り、外国人、障がいのある人等さまざまな人が暮らしています。誰も



が同じ様に学び、働き暮らす社会を実現するために市内のあちこちの街角に支援施設や支援団体があります。今回は「ファミリア卓球クラブ」の会員である熊倉望さんにお話を伺いました。この会は、国連が提唱するノーマライゼーションの理念に沿って、障害者スポーツ指導員の資格を持ってい

る方が、二十年前に市と交渉して援助を受け、枚方市障害者参加促進事業として卓球で立ち上げたのが始まりでした。しかし、昨年の暮れに、代表者の高齢化に伴い解散することとなり、それを惜しまれた障がい者の親御さん達が卓球をなくすのは偲びないと有志で継続されました。「障がいのある人もない人も元気で明るく楽しんで、精神面の健康にも良いスポーツだと思います」と語られました。

### 枚方人権まちづくり協会の相談事業

- 〈人権まちづくり協会〉  
サンプラザ1号館5F  
TEL 072-844-8788
- 〈男女共生フロア・ウィル〉  
サンプラザ3号館4F  
TEL 072-843-5636
- 女性のための相談  
[電話相談]  
火15:00 - 20:00  
水13:00 - 17:00  
木10:00 - 15:00  
専用電話072-843-7860
- [面接相談] ※  
水13:00 - 16:10  
木14:50 - 19:30  
金10:00 - 15:00
- [法律相談] ※  
第1土・第4火10:20-12:50  
第2金 13:20 - 15:50  
第3木 17:20 - 19:50
- 男性のための電話相談  
第1土 14:00 - 17:00  
第4木 18:00 - 20:00  
専用電話072-843-5730

※の相談は予約が必ずです。それぞれに電話で予約してください。

# 人権講演会 ネット人権侵害と部落差別の現実

## 「寝た子」はネットで起こされる

十一月二十二日に枚方市総合文化芸術センター別館メセナホールで山口県人権啓発センターの川口泰司さんの人権講演会を行いました。この講演会を、枚方市人権教育研究協議会と初めて共催することとなり九十名を超える教職員の方々と「差別」について一緒に考える機会となりました。



「昨年、水平社創立百周年を迎えたけれど、この五年十年で部落差別はひどくなっている」という言葉から講演会は始まりました。部落出身者は周りの人と違

いがないので、意図的ではない差別は現存しているし、正しい知識を持っていない人がネットの記事を鵜呑みにして、無自覚に差別をしていることがあり、差別は無くなっていないのです。

その上、ネット社会になり、見たい情報しか見ず、自分の考えと異なる情報を見なくなっている。つまり、自分にとって都合のいい情報だけを取り入れているので、正しいことが正しく伝わらない時代になっている。そして、今までは、差別する人は孤立していたが、現代では、ネットによって差別する人を支持する人達をつないでいる。だから差別被害は深刻化しているということです。

また、フェイクニュースは災害などで不安になっています。そのニュースを見た人にとっては「デマ」だと知るまでは

「真実」なのです。それは、どうすればいいのか？感情的な情報に出会ったときには一度落ち着いて考えてみる必要があるということです。具体的には、「それって本当？」、「誰が言ったの？」と自分に問い返し、冷静になって考えてみてはどうかというご提案でした。



十一月十五日、ラポールひらかたにおいて「落語で伝える戦争」と題して、桂花團治さんの人権文化セミナーを開催しました。桂花團治さんは、二十歳

### 人権文化セミナー 「落語で語る戦争」

「差別は、無知、無関心、無理解から生まれるので子ども達には人権教育が必要であり、異なる意見に出会える集団（学校）で学ぶことが大切である。そして、『差別をしない』ではなく『差別を許さない』生き方をしたい」という言葉で講演会は終わりました。自分にできること、子ども達に伝えなければならぬことをいろいろ考える有意義な時間になりました。

で桂春蝶さんに弟子入りし、蝶六の名で活動していました。縁あって平成二十七年に七十年ぶりに三代目桂花團治を襲名。襲名三年後、先代の家族から、二代目花團治さんが襲名してわずか一年で大阪空襲に遭い、防空壕の近くで亡くなったと聞き、四十七歳の若さでさぞや悔しかっただろうと感じました。コロナ禍自粛の生活の中、

### 人権映画会と監督トーク

ハンセン病ドキュメンタリー映画

## NAGASHIMA～かくいの証言～

2024年3月14日（木）13時30分～  
於：枚方市総合文化芸術センター別館

先代の無念さを考えることが多くなり、文献を読み、体験者からの聞き取りをし、戦争を伝える創作落語が三作できたと話されました。設けられた高座に上かられ、「防空壕」「じいじの桜」を演じられると、会場の雰囲気は一変。笑い声に溢れ、「楽しかった」「良かった」と席を立たれる参加者が多くいました。『桜の花が咲き誇ることは平和』と言われた言葉が印象的でした。